

# 令和4年度 赤穂市立赤穂小学校 学校評価報告書

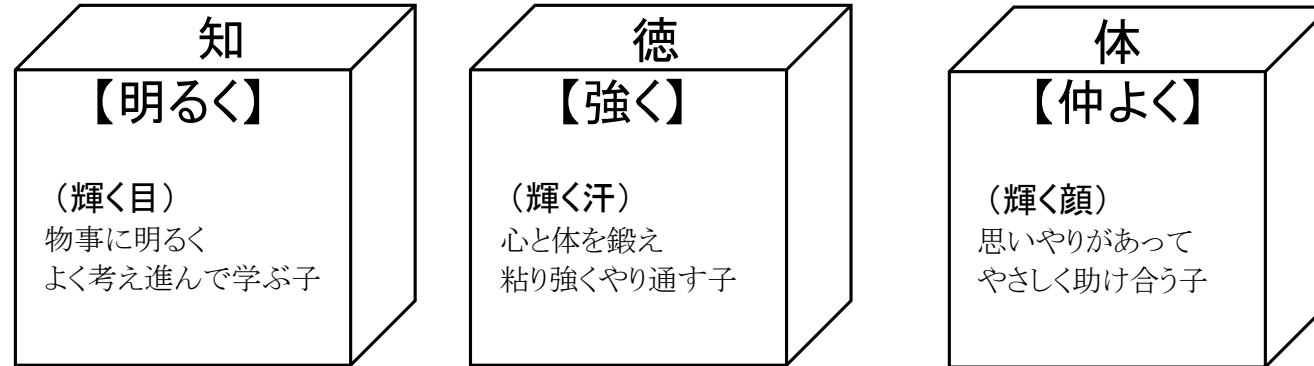
学校名 赤穂市立赤穂小学校

## 1 赤穂小学校の教育

### (1) 教育目標

夢を大きく膨らませ、共に支え合う児童を育てる

### (2) 校訓



### (3) 本年度の学校経営方針

#### <重点>

- 発達や学習の課題を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に向けた取組を進めるとともに、指導と評価の一体化を進め、確かな学力の定着を図る。
- 児童一人一人の内面に対する共感的な理解を深め、学校行事等の集団活動を通して望ましい人間関係の形成、実践的態度の育成を図る。
- 授業や遊びを通して、運動への興味・関心を高め、運動習慣の定着を図る。
- 重点目標
  - 1 児童のよさや可能性を伸ばし、自己有用感や自尊感情を高める指導の充実を図る。
  - 2 基礎・基本の確実な定着を図り、創造性や個性を伸ばす教育を推進する。
  - 3 夢や目標の実現に向けたキャリアプランニング能力の育成をめざす。
  - 4 人権尊重の精神を基盤に豊かな人間性の育成をめざす。
  - 5 社会の変化に対応した教育活動を展開し、指導者としての専門性と実践的指導力の向上をめざす。
  - 6 道徳教育・体験活動を充実し、他者を尊重し思いやる「豊かな心」を育む。
  - 7 児童の生活実態を把握し、授業や生活の中での体づくりや環境整備に取り組む。
  - 8 学校・家庭・地域社会との信頼関係を確立し、地域への愛着や誇りを育む。
  - 9 学校業務改善に取り組み、児童と向き合う時間を積極的に確保する。

### (4) 本年度の学校重点目標

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①学習指導要領に基づいた教育課程の着実な実施</li> <li>②キャリア教育の充実</li> <li>③特別支援教育の充実</li> <li>④人権教育の徹底</li> <li>⑤道徳教育の充実</li> <li>⑥外国語教育・伝統文化に関する教育の推進</li> <li>⑦読書活動の推進</li> <li>⑧環境教育の推進</li> <li>⑨「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>⑩心の通い合う生徒指導の充実</li> <li>⑪防災・安全教育の充実</li> <li>⑫学校園所・家庭・地域との連携(コミュニティ・スクールの充実)</li> <li>⑬福祉教育・ボランティア活動の推進</li> <li>⑭健康教育・食育の充実</li> <li>⑮プログラミング教育の充実</li> <li>⑯教職員の専門性と実践的指導力の向上</li> <li>⑰学びの保障に向けた教育活動の創造</li> </ul> |
|--|--|

### 【総合的な学校関係者評価】

・特別支援教育、インクルーシブ教育について  
 昨年末、「全国の公立小中学校の通常学級に通う児童・生徒の8.8%に発達障害の可能性あり」と記事が出ました。大変な時代に突入したと感じております。職員の専門性向上を図ることが永遠の課題ですが、クラス担任の負荷の増大が心配です。

・PDCAサイクルについて  
 勤務先において、数十年PDCAにて生産性向上を図ってきましたが、得てして犯人捜しばかりしてきたような思い出があります。学校では、そうならないようにお願いします。

・赤穂小学校の雰囲気は素晴らしいについて  
 障がいのある方から、色々な学校へ行きましたが、「うるさい」と注意した学校、静まりかえっていた学校等あったが、赤穂小学校は、授業態度が真剣で明るい素晴らしい学校だとお褒めのお言葉を聞きました。私も本当にそう思っております。頑張ってください。

・子供達の生き生きとした表情の中に、先生方の取組が表れていると思います。

・コロナ禍の中、よく頑張ってくられたと思います。

・今年もたくさんの行事へ参加させていただくことができました。また、学校運営協議会での報告などで学校のことを知ることができ、子供達の様子も見ることができました。引き続き、子供達への教育をお願いします。

・学校に通いにくい児童もまだまだいますが、保護者や関係機関との連携を取り、楽しい学校生活を送れるようにフォローをお願いします。

・SNSの使い方の把握は難しいですが、保護者、子供への啓発も引き続きお願いします。

2 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
(実践の柱)	評価指標及び目標値(期待される姿)				
①学習指導要領を踏まえた教育課程の着実な実施	項目	基礎基本の定着のための指導方法の工夫や、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に努めているか。	教職員アンケート【3.9】	A	
	指標	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に進めている。			
	項目	指導と評価の一体化を図っているか。	教職員アンケート【3.8】	A	
	指標	PDCAサイクルを重視した授業改善を図っている。			
	項目	キャリアプランニング能力の育成に努めているか。	教職員アンケート【3.9】	A	
	指標	学ぶことや働くことの意義を理解する授業や、生き方を主体的に判断する授業を行っている。			
②「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進	項目	年間を通して、環境整備を意図的・計画的に行っているか。	教職員アンケート【3.9】	A	「特色ある学校づくり」が課題の一つである。コロナ禍により、体験活動の実施や外部講師の招聘が困難な状況であり、各種行事の開催も中断されている状況であるが、今一度、赤穂小学校区の特性を見直し、「子どもたちへ何を学ばせるのか？(何を伝えるべきなのか)」という視点で、教育内容の再考を図りたい。児童の健康・安全な生活環境づくりに向けて、「通学路の安全状況」「学校内の安全点検」「災害時の安全確保」等について、引き続き、改善に向けた具体的な取組を進めていく。
	指標	当番活動、係活動等を充実し、過ごしやすい教室の雰囲気作りを行っている。			
	項目	実効ある危機対応マニュアルを策定し、危機管理体制が構築されているか。	教職員アンケート【3.8】	A	
	指標	自治体及び関係諸団体と連携し、各学校園で作成している安全三領域(生活、災害、交通)に対応した研修や訓練を実施し、必要に応じて改善を図ることに努めている。			
	項目	特色ある教育活動の推進に努めているか。	教職員アンケート【3.6】	A	
	指標	特別クラブ・防災学習・地域学習(町探検・加里屋川・赤穂義士等)について、充実した活動を行っている。			
③生徒指導	項目	一人一人の内面理解に努め、人間的なふれあいを基盤とした生徒指導を推進しているか。	教職員アンケート【3.9】	A	今年度も重大ないじめ事案は発生していない。これは、「いじめは絶対に許してはいけないが、必ず起きるものだ。」という積極的認知の姿勢のもと、未然防止・早期発見・早期対応に努めていることによると考えられる。特に、今年度も適切に「生活アンケート」を実施し、そのアンケートを全教職員で振り返る時間を確保している。些細なことでも気になることがあれば、すぐに児童から話を聞いたり、「いじめ対策委員会」を開催している。次年度も児童一人ひとりを大切に指導を進めていく。
	指標	毎日、学級にいる全ての児童に声をかけ、コミュニケーションをとっている。			
	項目	好ましい人間関係づくり、児童の心の居場所づくりに努めているか。	教職員アンケート【3.9】	A	
	指標	生活アンケートを活用し、学級で起こる諸問題を解決している。			
④人権教育	項目	教育活動全体を通じ命や人権を大切に育んでいるか。	教職員アンケート【4.0】	A	引き続き、教師自身が今日的な人権課題(ネットによるいじめ、LGBT等)を感じていきたい。その上で、「教室における指導」「全校的な取組」の必要性を整理していく。具体的には、パソコンやスマホの正しい利用に向けた「情報モラル教育」の充実を図り、ネット空間における人権に目を向けていく。
	指標	児童は自他の命を大切にし、お互いを思いやる心が育っている。			
	項目	いじめ、インターネットによる人権侵害等、今日的な人権課題に対する理解の促進を図っている。	教職員アンケート【3.7】	A	
	指標	新たな課題に対応した人権教育資料を効果的に活用し、研修を行っている。			
⑤道徳教育	項目	全教育活動の中で、道徳性の育成に努めているか。	教職員アンケート【3.5】	A	赤穂小学校では、道徳科の年間指導計画をもとに、計画的・横断的(他教科との連携)に指導を進めている。次年度も、道徳の時間を中心にして、学校生活全般において、道徳教育の推進に努めていく。
	指標	道徳科の授業を要の時間として、他教科や生活面でも児童の内面の理解に努めている。			
	項目	道徳の授業時数を確保し、指導法の工夫や研究に努めているか。	教職員アンケート【3.8】	A	
	指標	週一時間の授業時間を確保し、カリキュラム通りに実践的な授業を実施している。			

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCAサイクルは重要ですが、Pは現場をよく知ることが大事。</li> <li>「できない」を「できる」へ、「分からない」が「分かった」になるような授業実践を今後も引き続き進めてほしい。アンケート結果を見る限り十分な取り組みであることがわかるが、若干名「授業がわからない」と回答している児童や保護者がいることを忘れることなく、「全員ができる」「全員が分かる」を目指してほしい。</li> </ul>
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学路に関しては、場合に応じて試行錯誤することも重要。赤穂小学校は特に交通量が多い地域にあるので、引き続き交通安全指導を含め取り組んでほしい。</li> <li>「特色ある学校づくり」が課題だとあるが、コロナ禍の中、各種行事や外部講師による特別授業等、進めていくことが困難であったと思う。できる方法を考え、工夫しながら教育活動を充実してほしい。</li> </ul>
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が何をどのように感じているのかにも目を向けてほしい。</li> <li>「いじめ対策委員会」で、情報を共有し、組織で対応していることは評価できる。不登校への対応も含めて、今後も家庭や地域など関係諸機関と緊密に連携しながら組織で対応してほしい。</li> </ul>
◎	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争を題材にしてはどうか。家族間にはどんな人権課題があるのか。</li> <li>SNSのトラブルを未然に防ぐため、情報モラル教育を充実させてほしい。</li> </ul>
○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画を活用する授業を増やしてみようか。</li> <li>授業参観やオープンスクールが例年通り再開されるようになれば、その機会を捉えて、道徳科の授業公開を積極的に進めていただけたらと思う。</li> </ul>

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
⑥特別支援教育	項目	インクルーシブ教育システム構築に関する教職員の専門性の向上に努めているか。	教職員アンケート【3.7】	A	今後も、保護者、教師間、各校園所、関係専門機関との連携を積極的に進めていく。若手教員が増えている中、「教職員の専門性のさらなる向上」「充実した連携の継続」が課題であるとともに、特別支援教育の充実に向けて高い意識を持ち続け、一人一人の教員のレベルアップを図っていくことが必要である。
	指標	個別の教育支援教育や個別の指導計画を作成している。			
	項目	保護者、関係機関との連携を図っている。	教職員アンケート【4.0】	A	
	指標	配慮の必要な児童の支援として、保護者・関係諸機関と連携している。			
⑦福祉教育	項目	高齢者や障がいのある人などへの理解を深めているか。	教職員アンケート【3.4】	B	コロナ禍も落ち着き、具体的な福祉学習(点字学習・車椅子体験等)ができるようになってきている。今後は、道徳等の他教科とも横断的に連携し、学習を深めていく。
	指標	体験学習など多様な学習方法を取り入れて実践している。			
⑧環境教育	項目	自然や命あるものとのふれあいを通して、自然に対する豊かな感性や命を尊ぶ心の育成に努めているか。	教職員アンケート【3.6】	A	各教科指導において、積極的に環境教育の視点を盛り込み指導を継続していく。学校の指導のみならず、今後も学校と家庭が連携ながら一層の充実を目指していく。
	指標	生き物の飼育・栽培・ごみの分別・食育・環境体験学習など、環境に関わる内容を意識して指導している。			
⑨国際理解教育	項目	自国や他国の歴史・文化について理解を深めているか。	教職員アンケート【3.7】	A	国際理解教育については、「何を」「どの場面で」指導するのかという、指導における内容的な部分と人材活用という視点で、学校としてのビジョンを描くことが必要である。
	指標	自国や他国の歴史・文化にふれ、ALTを交えた授業を構成している。			
⑩情報教育	項目	ICTの積極的な活用を進めているか。	教職員アンケート【4.0】	A	次年度は、3年生以上で「デジタルドリル」を活用した学習を進めていく。ICT教育の充実に向けて、「実践の積み重ね」をもとに、評価と振り返りを進めていく。
	指標	電子黒板やタブレット等を活用した授業づくりをしている。			
	項目	情報モラルの育成やメディア利用についての家庭でのルールづくりに努めているか。	教職員アンケート【3.3】	B	
	指標	各学年に応じたメディアリテラシー学習を学期に一度行っている。また、ネットトラブルに関する新しい情報を学年通信などで家庭に発信している。			
⑪健康教育	項目	生活習慣の育成、感染症防止に努めているか。	教職員アンケート【4.0】	A	今年度も、「コロナ禍」および「熱中症に対する懸念」から、児童の運動量に減少傾向が見られた。「授業の中でできること(運動技能や運動意欲の向上に向けて)」「全校的に取り組めること」「家庭で取り組めること」を整理しながら、児童の体力向上を図りたい。
	指標	学校生活の中で子どもの行動・発言に対して適切な指導を行っている。			
	項目	運動習慣の定着を図るための指導の工夫・改善に努めているか。	教職員アンケート【3.6】	A	
	指標	朝活動で体づくり運動を継続して行い、子どもが熱中できる体育のじ授業づくりに取り組んでいる。			
⑫防災教育	項目	充実した防災教育が実施されているか。	教職員アンケート【3.3】	B	「11月5日」「1月17日」「3月11日」等、様々な防災関連の日を捉えて、全校的に発達段階に応じて「防災教育」を進めることができています。今後は、「場面に応じた適切な避難」を目標に掲げ、児童の多様な対応力を高めていきたい。
	指標	防災教育読本「明日を生きる」等の活用を行い、各教科や体験活動等を通して、災害から自らの生命を守るために主体的に行動する力を育成している。			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	・PDCAサイクルが最も必要である。そのための研修時間も確保してほしい。 ・特別支援コーディネーターを中心に、幼稚園や各関係諸機関との連携をとりながら、組織的に対応していただいている。しかし、インクルーシブ教育を推進していくためには、教職員だけでなく、地域住民や保護者の特別支援教育に関する理解が必要である。
○	○	・より充実した学習になるよう、活動したらそれで終わりではなく、何のためにこのような学習を行っているのか、という目的を見失わず引き続き取り組んでほしい。
○	◎	・赤穂小学校の校区には、千種川や加里屋川、雄鷹台山などの自然素材が豊富にある。加里屋川整備事業に係るホタルの幼虫の放流はもちろん、それらの学習素材や地域人材をより積極的に活用して、自然に対する豊かな感性を育んでほしい。
◎	◎	・ALTとの外国語を用いたふれあいや対話の機会を充実させてほしい。
◎	◎	・当たり前のことが当たり前ではなくなり、これくらい分かるだろうと思うことが分からない時代なので、丁寧な指導をお願いしたい。 ・一人一台端末の活用も本格化し、これまで以上に、情報モラルや情報リテラシーが育まれるような取組を期待している。時間があれば、少人数で指導してもよいのではないかと。
◎	○	・遊びを通して運動やスポーツへの興味・関心を高め、運動習慣の定着につなげる等、毎日、自ら体を動かす楽しさや心地よさを実感できるような取組の工夫を期待している。
○	◎	・防災士の方のクロスロードというカードゲームがとても考えさせられ、勉強になりました。 ・防災士の会を積極的に活用してほしい。

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策	
	評価指標及び目標値(期待される姿)					
⑬家庭と地域との連携	項目	家庭や地域への情報発信を十分に行っているか。	教職員アンケート【4.0】	A	「今、子どもたちは、学校で何をしているのか？」という情報発信に取り組んできた。次年度も、学校HPや学校だより等を通じて、より一層の情報発信をしていきたい。また、地域人材の活用については、「どの教材で」「何を教えるために」「どのような人材を活用するのか」というビジョンを描かなければ、この課題を解決することができない。地域人材の活用に向けて具体的な構想を立てていく。	
	指標	学年便りや各種お知らせ文書を分かりやすく丁寧に作成している。				
	項目	地域人材や地域教材の活用に努めている。	教職員アンケート【3.0】			B
	指標	外部講師や保護者・地域人材を活用した学習活動に積極的に取り組んでいる。				
	項目	家庭や地域との連携・協力は図られている。	教職員アンケート【3.9】	A		
	指標	連絡帳や電話等を活用して、保護者と密に、また日常的に連絡を取り合うことができている。				
⑭資質・指導力の向上、研修の充実	項目	教育公務員としての使命感・倫理観の自覚ができている。	教職員アンケート【4.0】	A	今年度も、教育公務員の不適切な行為が多数報じられているところである。管理職が、このような事案を正確に職員へ伝え、教育公務員として高い倫理観を持ちつづけていく指導が必要である。「教員としてあるべき姿」「教員としての資質向上」は、学校管理者の広い視野とリーダーシップが必要である。教育公務員としての使命感や倫理観の自覚を促すために、事案に関する情報提供を積極的に行うとともに、研修を定期的実施していく。	
	指標	服務規律を点検し、心ふれあう職場づくりに努めている。				
	項目	専門職としての力量をみがく、主体的な研修と実践が行われている。	教職員アンケート【3.8】			A
	指標	自主的に研修会に参加したり教育書を読んだりする等、指導力の向上に向けて取り組んでいる。				

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
○	◎	・「Akastaglam」で児童の様子がよく分かる。 ・学校HPの充実度は、他の学校よりも高い。「学校ガイド」や「警報になったら」等、紙で配付しているだけでなくHPにも載っていたら、保護者はいつでも確認することができるので安心である。
◎	◎	・赤穂小学校の最大の強みである。管理職の目が大事。 ・教師の負担感・多忙感は増している。教職員の負担感を減らし、働きがいをもって日々の業務に当たることができるよう、管理職にはこれまで以上のリーダーシップを発揮するよう期待している。

**【自己評価における特記事項】**

※達成状況の評価は、評価平均点を示しており、下記の点数で自己点検を行い、教職員数で平均している。  
A:達成した…4ポイント B:ほぼ達成した…3ポイント C:あまり達成できなかった…2ポイント D:達成できなかった…1ポイント  
※職務内容が異なることから、評価項目全て当てはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。  
※達成状況で、評定点数が「3.5以上」をA、「2.8以上3.5未満」をB、「2.8未満」をCとしている。

**【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】**

○算数教育のさらなる充実  
算数科において、学びを「自分事」にするための教材や発問、学習形態等の研究を赤穂市の小学校と連携して進めていく。